

6.5

22か国の商工会議所会員400名が集う

Kansai International Meishi Exchange

神戸・大阪・京都商工会議所、並びに21か国の在日商工会議所・国際関係機関は、名刺交換・ネットワークづくりを目的とする交流イベントをウォルドーフ・アストリア大坂で開催した。

同イベントは毎年開催されているが、今回は連携する商工会議所・国際関係機関を拡大し、製造、金融、接客、教育、クリエイティブ産業、公共部門など多様な分野のプロフェッショナルが参加。過去最大規模の開催となり、総勢約400名が集った。



産業部国際チーム



当日は、在日米商工会議所関西支部の川上次郎副会頭、横山英幸大阪市長の開会挨拶の後、リチャード・ラーセン在大阪・神戸米国総領事の乾杯発声でイベントが開幕した。

当商工会議所からは、藤岡副会頭をはじめ26名が参加。国際色豊かな雰囲気の中、飲食を楽しみながら参加者同士が名刺交換を行い、海外展開への足掛かりづくりや今後の海外販路拡大に向けた情報交換など、活発なビジネス交流が行われた。

6.11

シン・エナジー乾社長が自身の経験を語る

第8回企業経営者とスタートアップとの懇談会

神戸商工会議所は、スタートアップ育成を支援するため、起業家や起業を志す学生・社会人などを対象に、有力経営者が自身の体験談や大切にしている想いについて語り合う懇談会を開催している。

第8回目となる今回は、再生可能エネルギー開発や新電力運営を手掛けるシン・エナジー(株)代表取締役社長の乾正博氏が登壇し、「激動の30年とこれからのシン・戦略」と題して講演した。

乾氏は、同社の前身である沱陽電機エンジニアリングに参画以降、事業を拡大してきた30年を振り返り、「成功ば

かりでない。組織が大きくなるにつれ失敗も経験したから今がある」と述べた。また、社員が新聞の面白い記事を共有する「新聞ガヤ」や社員同士が自由に雑談する「ちょいガヤ」、企業内イベントを企画・実行する「委員会制度」など、自主性を高める独自の活動も紹介。「経営者と社員が一体となり、スピード感をもって成長できる会社づくりにこれからも挑戦していく」と強調した。

講演後は参加者から多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われるとともに、新たなビジネスに挑戦する起業家にエールを送った。



産業部産業振興チーム



6.17

価格高騰や 人材確保への支援を要望

地元建設業並びに関連事業者の振興に関する要望



建設部会は、「地元建設業並びに関連事業者の振興に関する要望」をとりまとめ、神戸市に要望書を提出した。

要望当日は、高田副会頭をはじめ、今津部会長、山下・岡副部会長が今西・小松副市長ら神戸市幹部と懇談。建設資材・燃料費の高騰や人手不足に対応するため、物価スライド条項の迅速な適用や、事業者と連携した若年層向け見学会の企画など、行政による具体的な支援を求めた。

今西副市長からは、「市としても建設業界の動向を非常に重視している。要望をしっかりと受け止め、政策へ反映させていきたい」と前向きな姿勢が示された。

地域政策部

6.22

経営者が知っておくべき 資金繰り管理を学ぶ

「資金繰り」見える化セミナー



伊東公認会計士・税理士事務所の伊東昌一氏を講師に迎え、飲食店及び小売店向けの資金繰り管理をテーマにセミナーを開催した。

伊東氏は、資金繰り表の作成方法をはじめ、金融機関との関係構築のポイントや融資審査時に評価される観点について紹介。事例も交えながら、経営者が押さえておくべき内容を体系的に解説した。

参加者からは、「自社の資金繰りを見直す良い機会となった」との声が聞かれ、経営改善への意識向上につながる機会となった。

中央支部

6.17

AI活用による 業務変革のポイントを学ぶ

Claude Codeと企業DX徹底解説セミナー



DX・AI活用のノウハウや、AIコーディングエージェント“Claude Code”の活用法を学ぶため、(株)ノーコードソリューションズ代表取締役の仙入功樹氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

仙入氏は、Claude Codeを用いて、領収書データの集約やKPI資料の作成、資料のデザイン変更の自動生成を実演。「AI活用の成果を高めるには、データベースの整理と扱う人材の育成が重要」と強調した。

参加者からは、「属人化・暗黙知化する情報を整理し、AIを活用して生産性を高めていきたい」との声が聞かれた。

産業部産業振興チーム

6.24

生成AIの業務への活用方法を学ぶ

生成AI活用セミナー・応用編



生成AIの特性を理解し、自分なりのAI活用法を確立させることを目的に、オフィス・ジガーの金子雄太郎氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

金子氏は、日常の業務判断や整理・改善に生成AIを組み込むポイントについて説明。「生成AIは一発で正解を出す魔法の道具ではない。AIに任せきりにするのではなく、AIと対話した上で、自ら判断して行動することが重要」と強調した。参加者は実際にパソコンを用いながら、自身の業務における具体的な活用方法について理解を深めた。

会員事業部事業推進チーム